

令和3年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭南小学校

学校 教育 目標	かがやくひとみ ～自律できるたくましさを育む～
	【目指す学校像】
	◎笑顔で登校、笑顔で学び、笑顔で下校 ○一人ひとりの居場所がある「安心」できる学校 ◎自分もやってみようという「意欲」がもてる学校 ○子ども・教職員・家庭・地域 みんなで「協働」する学校
	【めざす子ども像】 か かんがえる子 が がんばる子 や やさしい子 き きたえる子

昨 年 度 の 評 価 概 要	◎学力の育成 授業が分かる (B) 話を聞く (B) 家庭学習 (C) 読書習慣 (C) 授業改善 (B)
	◎豊かな心の育成 いじめのない学校 (B) あいつ (B) こころ磨き (B) 自己肯定感・自己有用感 (B)
	◎たくましい心身の育成 体力向上 (B) 望ましい生活習慣 (C) 食育の推進 (B)
	◎保護者、地域との連携アップ 地域のボランティアが学校にどんどん入っていくことで地域と学校が一体化してきた

中 期 的 目 標	◎学力の育成 ○知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。
	◎豊かな心の育成 ○人と関わる力を伸ばし、「気づき力」を身につけ「挑戦する力」「やり切る力」を育成する。
	◎たくましい心身の育成 ○自分の体力の向上に関心を持つとともに、安全を確保することのできる知識・技能・態度を身に付けさせる
	◎9年間を見通した小中一貫教育の推進、学校に対する地域の理解や関心を一層高める ◎授業力、学級経営力、課題対応力の向上を目指す活気のある教職員集団の構築

評価項目(指導力点)	指標：到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	小項目	中項目	改善方策について	学校関係者評価	
◎考える子：学力の育成 ○子どもと割り上げる授業(授業改善) ①魅力ある学習課題、導入、発問の工夫 ②教師の役割の転換。子どもと子どもをつなげる支援を充実させる。 ③働き合う教室による「伝え合う力」の向上 ④学びに向かう姿勢、「読み解く力」の育成 ○基礎・基本の定着 ①個別最適な学び ②授業のユニバーサルデザイン化 ③ICT機器の効果的な活用 ④全員参加のための協働的な学びの実現 ○学習規律、学習習慣の確立 ①学習に向かう構えづくり ②家庭学習、読書活動の充実 ○湖西中学校区小中一貫教育の推進	○子どもと割り上げる授業(授業改善) ※授業の理解度、満足度への自己評価 90%以上 ※指導の工夫、授業改善への自己評価 90%以上 ※働き合う教室の実現への自己評価 80%以上 ○基礎・基本の定着 ※個に応じた学習支援への自己評価 90%以上 ※支援の必要な子を意識した授業の流れの工夫、説明や指示、板書の工夫への自己評価 90%以上 ※個別最適な学び 90%以上 ○学習規律・学習習慣の確立 ※学習に向かう構えづくりのし手立てへの自己評価 90%以上 ※家庭学習を進んでやる 90%以上 ※平日30分以上の読書 80%以上 ○湖西中学校区小中一貫教育の推進 ※「つながり」「15の育ち」を意識した取組の推進 ※学習・授業統一公開日を軸とした共同授業研究システムの推進	○「学習の理解度」の児童評価94%、保護者評価88%。「働き合う教室」の児童評価は87%となっており、昨年度より良くなった。 ○子どもとの発言を大事にした授業づくり、子どもと子どもをつなぐことへの意識も高まり、授業改善の教師の思いは高まっている。 ○「わからないことを質問できる」と答えた児童は80%であり、個に応じた学習支援についての評価は少し低い。 ○自己解決の時間には個に応じたヒントを準備し、必要に応じてヒントを出せるようにするなど、個別最適な学びへの意識は高くなった。 ○タブレットを活用した教材教材研究、教材提示を行うことができた。 ○「家庭学習」の児童評価は90%、保護者評価は66%であった。「読書」の児童評価65%、保護者評価は37%であり、本校の課題である。 ○指定された学習だけを行う、進んで自学し取り組めるようになった。 ○学習に関連付けて、図書室を積極的に利用した。	B	B	○何を身につけさせたいか、何を学ばせたいかをしっかり持ち、授業後(単元後)の子どもの姿をイメージし、子どもたちと共有する。 ○子どもたちに、自分たちが授業の主役であることを意識させる。 ○OJTを効果的に使い、授業を語る場を多く設ける。 ○学年ごとにつけたい方を明確化し、反復練習を計画的に定める。 ○学習計画を子どもたちと一緒に立てる等、単元ごとに学習の見通をもてるような手立てをする。 ○目的を明確にした言語活動で、思考力、判断力、表現力を育む。 ○タブレットを活用した授業をこれらも引き続き交流していく。 ○「学習の約束」の見直しと徹底。 ○授業と家庭学習がつながるように学習を意識させていく。 ○宿題の出方や評価を工夫し、達成感を持てるよう改善していく。 ○児童が自然に本に手にとれるよう授業(積極的に)図書室を活用する。	○「考える子」学力の育成)に向け、参観した様子から、先生方が授業改善に日々取り組まれていることとわかり、うれしく思う。 ○わからない子、積みあがっていない子たちへの配慮は必要。取り組んでいると思うが、引き続き努力してほしい。 ○学習への意欲面、学力の差が大きいのなら、達成度別などの取組も必要になってくる。コロナ前教後課子も教室を実施していた。学力の補充、一緒に宿題をする等のか話し相手という役割もあった。コロナがおさまれば可能かと思う。低学年、中学年で取り組みが表れてと感じる。 ○手を挙げた勇気のない子にして、タブレットで自分を表現できることが行動変容につながっていく、良い流れができると期待している。 ○タブレットの操作の習熟の違いは大きいように思う。どんな配慮ができるか、サポートができてきたのか、大きな課題かと思う。 ○調べ学習やタブレットで調べられるのではなく、図書室を活用することも意識的に利用されていることと安心する。 ○家庭学習の児童と保護者の評価の差が気になる。保護者は何を気にしているのか把握して、取組を考えてよいのでは。	
	◎優しい子：豊かな心の育成 ○互いの違いを認め合える心の育成(人権教育) ○思いやりの心を育む(道徳教育) ※相手の気持ちに寄り添う(共感力)を育み、励まし合う関係づくりの推進 ○特別でない特別支援教育の推進 ※不公平感を感じさせず、周りの子への配慮を忘れず、対応を教える(支援者を育てる) ○凡事徹底の学校風土の構築 ※当たり前のことが当たり前にできる子を育てる	○心育てる人権教育、道徳教育 ○互いの違いを認め合える心の育成(人権教育) 90%以上 ※思いやりの心を育む(道徳教育) 90%以上 ※相手の気持ちに寄り添う(共感力)を育み、励まし合う関係づくりの推進 90%以上 ○特別でない特別支援教育の推進 ※特別の子に優しく、地域へ、未来へつなぐ学校教育の推進 90%以上 ※個別の支援計画の活用への自己評価 90%以上 ※凡事徹底の学校風土の構築 90%以上 ○凡事徹底の学校風土の構築 ※ルール、決まりの大切さに気づき、守ろうとする態度を養う。	○「学校が楽しい」の児童評価は88%で昨年度より低下した。 ○「友達のことを考えて行動する」の児童評価は95%であった ○「いじめはいけない」と答えた児童は全年齢で95%以上であった ○マイクラーソンゲームなどに意識した学級経営に努めた。 ○子どもたち同士で助け合いながら学校生活を送ることができた。 ○支援の必要な子を把握し、どのように声をかけようかを周りと相談しながら関わることを心がけた。 ○巡回相談では、児童の悪化や課題を見てもらえたことは多かった。 ○個別の支援計画の活用、教育支援委員会の充実には課題が残る。 ○「決まりやルールを守る」の児童評価は94%、保護者評価は93% ○「当たり前の」定義が貫かれていないことが課題。	A	B	○「マイクラーソンゲーム」を意識した学級づくりの継続。 ○横つながり意識させ、思いや心をさらに育てるよう努める。 ○児童の発言や行動に敏感になり、児童の人権意識を高めていく重要な他者であることと自覚を強める。 ○課題に向き合い、思いを交流させる道徳の授業づくりを進める。 ○巡回相談の活用、通級指導教室がある利点を生かし、理解推進、支援の在り方を研修することを通じて、指導力の向上をめざす。 ○個別の指導計画やチェックリストの積極的な活用 ○教育支援委員会の持ち方について見直しを図る。 ○当たり前のことを当たり前にできる力を育むため、その意義を理解せしめ同じ姿勢で、指導しよう。	○いじめは些細なことから始まることと認識を共有し、引き続き、未然防止、早期発見、早期対応に心がけて欲しい。 ○「学校が楽しい」については、子ども、親、教師それぞれでの「楽しい」の捉え方が違う。視点、観点をすり合わせてもらいたい。 ○いじめや道徳については地域の力を借りたい。理想と現実の乖離、大人の世界にも問題がある等、地域の大人、高齢者の体験を聞くことで、子どもたちも問題について深く考えることができる。 ○当たり前の定義はやはりあいまいになっている。教師の捉え方、保護者の捉え方、年齢、性別により違いが出てくる。「普通とは」「当たり前」としっかり定義して、保護者と共有する必要がある。
		◎がんばる子：主体性の育成 ○「個」が生きる「集団」づくり(特別活動) ※子どもたちの自発的な活動を生み出す特別活動の推進 ※目標に向かってみぞ協力する 90%以上 ※難しいことでも失敗を恐れず挑戦している 90%以上 ○豊かな人間性、社会性を育む(キャリア教育) ※自分には良いところがある 90%以上 ※将来の夢や目標を持っている 90%以上 ※最後まで努力できる 90%以上 ○生徒指導の3つの機能を生かす ※全ての子どもたちに上番を身える活動の工夫	○「個」が生きる「集団」づくり(特別活動) ※子どもたちの自発的な活動を生み出す特別活動の推進 90%以上 ※目標に向かってみぞ協力する 90%以上 ※難しいことでも失敗を恐れず挑戦している 90%以上 ○豊かな人間性、社会性を育む(キャリア教育) ※自分には良いところがある 90%以上 ※将来の夢や目標を持っている 90%以上 ※最後まで努力できる 90%以上 ○生徒指導の3つの機能を生かす ※全ての子どもたちに上番を身える活動の工夫	○「はまじたり、応援したり、みんなと協力している」児童評価は95%であり、「居心地の良い学校」への児童評価は97%と見られる。 ○「最後まであきらめずがんばる」の児童評価は93%と見られる。 ○よりよいクラスにするために子どもたちが考えあがっている。 ○「自分にはよいところがある」と答えた児童は83%(5ポイント減) ○将来の夢や目標がある子は多いが、イメージできていない子も多い。 ○最後まで努力する」と答えた児童は91%(3ポイント減) ○自己有用感を感じる機会を意識してきたが、まだ効果が出ていない ○授業の中で、全ての子どもに上番を身えられるような活動を取り入れようとして、自己決定できる場面も意識してきた。	B	B	○帰りの会などを利用して、学級や自分を見つめる時間を設ける。 ○失敗の経験とその反省を活かせる経験の両方を考えた計画を考える。 ○一人一人の生活の場を設定することは可能、お互いに認め合えるよう、それぞれの良さを生かせるようにする。 ○音楽を見据えてつけていかなければならない力を職員、保護者、地域と共有し、児童も伝えていく。 ○取組の過程での評価、賞賛、励ましを大切にす。 ○自己肯定感、自己有用感を育て体験活動を重視する。 ○教師の指示を控え、子どもたちに自己決定できる場面をもちかり持つ、子どもたちの決定を尊重し、結果に責任を持たせる。 ○身体を動かすこと、意欲、必要性、簡単にできる方法等については興味をもっている保護者も多い。保護者への情報提供、啓発も有効ではないか。 ○基本的な生活習慣については、家庭によって捉え方、考え方が異なることもあり難しい面もあるが、子どもたちの指導は根気強く続ける。 ○子どもたちの危機感の薄れが気になる。安全意識を根気よく育て、自分は大丈夫という思い込みが大きい。良い、良い大人の姿を見える機会がなく、大人が安全に気を配っているという実感がなくなっていること課題である。 ○「自分の身体は自分で守る。人は他人の身体を守ることにできない」ということを気づかせることで、安全に意識できるようにすることができ、安全を意欲させる子で育てて欲しい。
			◎きたえる子：たくましい心身の育成 ○健康への意識向上 ①基本的な生活習慣の確立 ②食育の充実 健康への意識を高め、実践につなげる ○バランスのとれた体力・運動力の育成 ①魅力ある体育授業(授業改善) ②運動に親しみ環境づくり ○自分の安全を守る意識と力の育成 ※安全に関わる課題に対し的確に判断し、適切な意志決定や行動選択ができる能力を育む	○健康への意識向上 ※健康に気づけて生活することへの評価 85%以上 ※寝・起・朝ご飯・朝ご飯への評価 90%以上 ※食育の充実 90%以上 健康への意識を高め、実践につなげる ○バランスのとれた体力・運動力の育成 ※体力の向上、運動への親しみの評価 90%以上 ※体育授業、体育的行事の工夫改善 ○自分の安全を守る意識と力の育成 ※安全・安心な学校 90%以上 ※安全に関する指導への評価 90%以上	○「健康な基本となる生活習慣」の児童評価は92%、保護者評価は93% ○「早寝・早起・朝ご飯」の児童評価は80%、保護者評価は87% ○健康な生活、生活リズム、朝ご飯の大切さを理解しているが、実践にまで高められていない。 ○栄養教諭、養護教諭と連携した指導ができています。 ○「運動の親しみ」の児童評価は91%、保護者評価は78%である。 ○授業や行事では、めあて、見通しをもたせることで、意欲的に活動することができた。 ○「非常時に適切な行動がとれる」の児童評価は97%、保護者評価は64%(5ポイント増)で、大きな差があった。 ○安全への意識が低い児童が多い。登下校の様子も改善してほしい安心感がある。	B	B
◎教職員の教育力を高める ○学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ①学校運営参画意識の向上 ②OJT研修の充実(多様で多面的OJT) ○チームで勝負する教職員集団 生徒指導、教育相談の充実 学び合い、高め合う職員定				○学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ※学校運営参画意識の向上 90%以上 ※OJT研修の充実 90%以上 ※授業力、学級経営力の向上のための学び合い ○チームで勝負する教職員集団 ※人間関係づくり(思いを聴く)を第一とする児童・保護者との対話 ※組織対応力の向上(報道相記録の徹底)	○職員で子どものことを話しあえる機会、開いてもらえるという安心感がある。学んだことを実践する意欲につながった。 ※OJT研修の充実 ○計画的にOJT研修を行うことができた。 ○指導要領検討会、事前研修により学習の機会となっている。 ○チームで勝負する教職員集団 ※人間関係づくり(思いを聴く)を第一とする児童・保護者との対話 ※組織対応力の向上(報道相記録の徹底) ○情報も共有すること、組織対応力向上につながっている。	A	A
	◎地域とともにある学校づくり ○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化 ①南小の会との連携協働 ※幅広い見方からの意見(適切な判断)につなげていく ②学校運営協議会委員との熟議の充実 ○良きパートナーとしての協力体制の構築 学校：確かな学力、安全な環境を整える 家庭：心身の健康、生活習慣、規範意識の基盤 地域：安全な地域作り、多様な体験の場			○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化 ※学校間関わり人口の増加(夢の会会員増) 90%以上 ※幅広い見方からの意見(適切な判断)につなげていく ②学校運営協議会委員との熟議の充実 ○良きパートナーとしての協力体制の構築 ※相談できる教師、相談できる学校へ評価 90%以上 ※情報提供への評価 90%以上	○学校運営協議会では様々な視点からの意見が、学校の運営に反映されている。お互いの思いを伝え合う場は有意義である。 ○学校運営協議会委員の熟議は、とても新鮮で、学校が外からどう見られているのか、何を求められているのかわかる重要な場であった。 ○「思いを聞く教師」への児童評価は全ての項目で95%以上であった。 ○「相談できる教師、学校」への保護者評価は88%、「情報提供」、「目指す学校像、児童像の共有」への評価は95%以上であった。 ○保護者と情報を共有し、一緒に対応を検討することを心がけてきた。	A	A

学校関係者評価	総評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	◎理想の学びは、学びの主体者である子どもが楽しさを感じることと思う。授業改善に継続して取り組んで欲しい。教室の学び、教室外の学び、地域とも学ぶことをうまく組み合わせたい。 ○自己評価でも「C」になっているところは、本来家庭や地域がもっと役割を発揮する分野である。家庭や地域による「学校応援団」が定着していくことが望ましい。学校にどんどん入っていくことで地域と学校の一体化をさらに強めて欲しい。 ○分析と評価が適正になされ、それを受けてしっかりと改善方針が考えられていると思う。子どもと保護者、教師の評価が一致するよう子どもと保護者の連携をさらに意識し、日々の取組を工夫、日々の取組が工夫が続けて欲しい。	B	○授業と家庭学習がつながるように学習を意識させていくことで、学習習慣の定着につなげる。基礎基本の定着に向け、教材の選択や開発の工夫等、ICT機器の効果的な活用など、個に応じた指導を充実させる。 ○豊かな言葉かけができる児童、将来の夢や希望を語る児童を育てるため、安心して挑戦できる環境を重視する。自分も友達も大切にできる人間関係の基盤づくりのため、いじめのない学校づくり、「つながり」を大切に「した学校づくり」を児童とともに目指す。 ○自己有用感、自己肯定感を育むため、一人ひとりが活躍できる場面を増やすことに努め、居場所があり、やりがいのある居心地のよい学級づくりに努め、笑顔で登校し、笑顔で学び、笑顔で帰る学校をつくりあげる。 ○自分の健康、体力に関心を持ち、自分の命を自分で守る意識を高めるための健康・授業改善を充実させ、自分で行動、行動できる力を育む。 ○「学校・家庭・地域」つながり、地域の宝である子どもを守り育てる」ために、「育てたい子ども像」を学校、保護者、地域で共有するとともに、地域人材、地域域力を生かした教育活動を充実させる。 ○引き続き、「学び続ける教職員の確立」を学校経営に位置付ける。また、これまでの取り組みを継続・発展させるために「学校運営への参画意識」の向上を図る。